

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791900117		
法人名	医療生協かわち野生活協同組合		
事業所名	医療生協かわち野生活協同組合 グループホーム さんがの杜		
所在地	大東市三箇5丁目6番22号		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年3月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの時間のペースにできるだけ合わせながら、その人らしく生活していただける。と過ごしていただいている。  
 食事はできるだけ温かいものは温かく提供し、美味しいと満足いただけている。  
 季節ごとに行事を行い、気候や天気の良い日はできるだけ、外気浴、散歩、ドライブなど、行っている。グループホームということで、その人が生活してきた馴染みの物を自室におきかえてきている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、大東四条畷保健生活協同組合が2年前に合併した医療生協かわち野生活協同組合当ホームは平成26年に開設し、小規模多機能施設を併設しており、機械浴の利用やボイラー入れ、運営推進会議の同日開催などで連携している。地域在住の組合員が運営推進会議に参加するなど、生協ならではの協力体制がある。職員の利用者担当制を取り、物にめ細かく行き、一人ひとりに寄り添ったケアを実践し、希望に応じて看取りまで行うなど、「かかったと思える第二の我が家」という事業所理念の具現化を図っている。管理者以外は非正規雇用だが、各自が担当(パッド購入・食事おやつ・レクリエーション・理美容・備品)を持ち、責任を持っており、コミュニケーションをとってチームワーク良く取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々々の状況や要望に応じて柔軟	○	1. ほぼ全ての利用者が				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療生協の介護」方針を基本に実践している 理念を掲示し職員全員で共有し日々の支援に生かせるよう努めている	ホーム理念を「生きていて良かったと思える第二の我が家」とし、玄関に掲示して利用者・家族・職員に周知している。職員の利用者担当制をとり、利用者一人ひとりに合わせた丁寧なケアを行い、希望に応じて看取りまで行うなど、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩時、近隣の方や公園であう方などに積極的に挨拶している、医療生協の地域組合員さんとの交流や地域の祭りなどに見学に出かけている	自治会に加入しており、地域のだんじり祭りがホーム前を訪れてくれる。散歩時には地域の人や公園で遊ぶ子ども達と触れ合っている。大正琴・ギター演奏、紙芝居などのボランティアを受け入れ、隣接する小規模多機能施設の利用者と一緒に楽しんでいる。今後、ふれあい喫茶オレンジカフェを再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三箇の支部会に参加している。今後認知症の学習会を行う予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行う運営推進委員会の中で入居者の状況や行事、地域との交流について意見や助言を頂きサービスの向上に生かせるよう努めている	会議は、奇数月の第3水曜日午後15時に定例化し、地域包括支援センター職員・民生委員・地域の生協組合代表・家族(交代)の参加を得て開催している。会議では、事業所の現状報告・活動報告などを行い、身体拘束についても議題とし、意見交換している。	知見者(医師・薬剤師・他施設管理者など)や自治会関係者などに働きかけ、また議事録を家族に配付して理解と参加を促すなどで、会議メンバーを拡充し、会議がさらに有意義になるよう取り組むことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度について分からないことがあれば介護保険課に相談している。	市の介護保険担当者とは保険更新手続きや各種報告で、生活保護課とは介護保険料負担やオムツ代給付などで、日常的に連携している。年金を受給している生活保護受給者への介護保険料一部負担の限度額について説明を受けたり、介護保険制度の改定についての勉強会に参加したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対するマニュアルを作成し職員にも周知徹底させている、玄関はキー操作であるが番号を見える所に張り出している。	運営規程に「身体拘束等の禁止」の条項を掲げ、方針と取り組み内容を明記している。身体拘束廃止の指針を作成し、運営推進会議時に年4回身体拘束について議題として検討し、職場会議（職員会議）で年5回勉強会を開いて、職員に周知している。家族の了解を得て、夜間ベッドからの転落防止の為、起床感知センサーを使っている人がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	インターネット学習などで職員に周知徹底させている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見人制度について外部研修会等に参加し学ぶ機会を持ち支援に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書にて説明を行い理解・納得した上で署名、捺印をして頂いている 追加加算に関しても家族等を通して説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「虹の箱」(ご意見用紙)を設置し日常的に意見を出せるようにしている、また家族様が来訪時にも何か要望等ないか聞いている	家族の訪問は、毎日の人から月1回程度の人と様々で、受診時や、食事介助で週1回訪問する人もあり、訪問時は利用者の状況を伝え、意見・要望を聞くよう努めている。疎遠な家族には電話やメールで報告や要望把握を行っている。出された要望は必要に応じて職員会議や法人(生協)の常勤者会議で検討して対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や申し送り時などで日常的に意見を出せるようにしている。各担当を持ってもらったり、役割分担を行い意見を出してもらっている	法人理事が運営推進委員会に参加した後、職員の意見を聞く機会がある。年2回、職場目標・個人目標に基づいて職員面談を行っている。職員は担当(パッド購入・食事おやつ・レクレーション・理美容・備品)を持ち、責任を持って運営に関わっている。薬事故防止のために一覧表を作ったり、誤嚥防止のためにとろみ食を作ったり、意見反映事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も職員と同様に業務に入り日頃からコミュニケーションをとり職員からの意見をすぐに反映できるように努めている、向上心を持って働いてもらえるように個人目標も掲げてもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人企画のインターネット学習に職員全員取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の連絡会の参加や学習会参加への呼びかけは常時行っている		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問をして本人や家族の困り事、不安、要望を聞き安心したサービスを提供し良い関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯や経過を聞き、その中から家族の要望を聞いている。その思いをケア計画に生かすよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状態を聞き適切なサービスの情報を提供しより良いサービスに繋がるよう関係作りに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の残存能力を活用し共に暮らす者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化、良かった事や新しい発見等は面会時やメールにて知らせている、毎月日常生活の様子を手紙にてお知らせし共に支えて行く関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的にも家族や友人等にいつでも連絡が取れるように支援し時間を問わず気軽に来訪して頂けるよう努めている	ケアマネジャーが利用者の馴染みの関係をヒヤリングして基本情報に記録し、日々の関わりの中で把握したことは申し送りして、職員間で共有している。親族の他、かつての職場仲間やコーラスの先生・仲間、近隣の人などの訪問があり、自宅や孫の結婚式に出かける人、馴染みの深北緑地公園で散歩する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で個人の性格や感情の変化を理解し入居者同士の関係に気を配り支え合える関係・環境づくりを心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了したご家族様とも交流しておりお手紙やメールを頂いている、またいつでも来訪してくださいとお声かけしている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情、本人のやりたい事や行きたい所等を聞き取り希望を配慮するよう努めている	基本情報や家族の話から、利用者の思い・意向を把握している。把握しにくい人は、アイコンタクトや声かけ、表情の変化で察知して適切に対応している。新聞日曜版の継続購読、玄関口の花への水やり、音楽好きな人のためのギターボランティアを受け入れ、傷んだ靴の買い替えなど、利用者の希望を叶えて喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・ケアマネ・他から情報を収集し個々の生活歴を理解し自立した生活が送れるよう配慮に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面・身体面・有する能力を配慮しご本人の出来る出来ないを見つけ出し自分自身のペースで生活出来るよう配慮に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議や医療との連携、それぞれの意見を検討し適切なケアを行えるようにしている	介護記録日・々の記録・申し送りや、医師・看護師・家族から利用者の状況・要望を把握し、長期目標1年(又は半年)、短期目標3か月(又は1か月)で介護計画を作成している。毎月の職場会議でカンファレンスし、3か月ごとにモニタリングし、職場会議時のサービス担当者会議(本人も参加、家族からは聞き取り)で半年ごとに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや経過記録等で情報を共有し援助に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応し必要に応じて計画書の見直し、変更を行い支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる楽しみや活性化の支援で豊かな暮らしが出来るよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(協立診療所)と連携を強め適切な医療が受けられるように支援している	利用者・家族の意向を尊重し、現在は全員が24時間対応可能な協力医療機関の診療所の月2回の訪問診療を受診している。歯科は口腔ケアを兼ねて希望者が週1回の訪問診療を受けている。その他専門科も受診できるように支援している。看護師は毎日訪問して全員の健康状態をチェックし、24時間体制で緊急時対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で体調不良や異変の場合は適切な指示を受けている。日常においても報告・相談を常時おこなっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は状態確認や退院に向けての相談を面会や電話にておこなっている、協力医療機関とも情報交換を随時行い早期退院できるように関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や終末期に対する指針の説明を行い重度化した場合には家族・医師・職員と共に話し合い方針を決定して支援する体制を作っている	入居時に「重度化した場合の指針」を説明し、同意書を交わしている。重度化した場合には、医師が状態を家族に説明して対応を再確認した上で、看取り希望があれば医師・看護師・家族・職員が話し合い、協力して本人にとって最も望ましい終末期が過ごせるように支援する体制を構築している。昨年暮れに、ホーム初めての看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について内部・外部での研修を実施し知識・技術を取得している、利用者が急変した時の為に家族様に急変時の意向書を書いて頂いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している、消防訓練の実施も行い近隣の組合員にも協力体制を築いている	災害対策マニュアルを整備している。年2回消火・避難訓練を消防署立ち会いと自主で実施している。運営推進会議時実施の訓練に、地域組合員が参加した事はあるが、地域住民の参加・協力が無い。職員会議の後、地震・風水害の対応シュミレーションも行っているが様々な災害を想定した実践訓練と備蓄が不十分である。	火災の他、地震・風水害を含めた訓練、特に夜間の一人体制時に職員全員が初動対応できるよう、短時間実践訓練を増やすことを期待する。地域の人には、職員が避難誘導した利用者の見守り役を主とした協力を依頼し、飲食料や暖房品・常備薬など最低3日分の備蓄が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛け等、本人のプライドや個人の気持ちを尊重し常に配慮するように心掛けている。入浴・トイレ・更衣の際は必ず扉を閉めプライバシーを保っている	法人が年間計画の中で行う接遇・人権・プライバシーに関わる研修を受講している。利用者一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、誇りやプライドを損ねない言葉遣いと対応をするように努めている。不適切な言動に気づいたら直ぐに管理者・リーダーが注意している。個人情報に関わる書類は、鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら話し出すきっかけ作りや表情や動作などから読み取り自己決定が出来る場面作りを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるも各自のペース、対象や気分に応じた臨機応変な対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や清潔感に配慮しながら各自の能力に応じた支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にはケーキを手作りし盛り付けなどを手伝って頂いたりしている、日々の食事では出来る範囲で盛りつけや片付け等で何らかの関わりを持てるように留意している	給食会社から毎食届く下処理済みの食材を職員が焼く・炒める・揚げるなど手を加え、美味しい食事を提供している。利用者の好きなホットケーキ・お好み焼きなどのおやつは一緒に作って楽しんでいる。利用者は可能な範囲で盛り付けや後片付けを職員と一緒にしている。オープンキッチンから職員と利用者が家庭的な雰囲気の中で談笑している様子が見通せる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立は専門の業者による栄養バランスのとれた食事を提供している、また個人に合わせて食事形態も変えており水分量などもチェック表にて管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回訪問歯科を取り入れ毎食後個人の能力に合わせた声掛け、誘導介助を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して各自の排泄パターンや内容を配慮した上で声掛けやトイレ誘導、介助を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、少し余裕を持ってトイレへ誘導し、全員トイレでの排泄に向けた支援を行っている。尿・便意を自覚できる。完全自立者は2名いる。日中のオムツ使用者はいない。夜間使用者は1名だけである。オムツ・リハビリパンツ・パッドの使用を極力少なくし、家族の費用負担を削減して大変喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中に体操や散歩、運動を取り入れながら適切な水分、食事摂取量に配慮し排便の報告も看護師におこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事・入浴拒否・体調不良等があれば日時を変更しています。個々に応じてシャワー浴や清拭も取り入れ最低週2回の入浴を実施している	入浴は基本週2回だが、要望や体調により柔軟に対応している。香りや肌触りの良いケヤキの浴槽でゆっくり楽しみ、心身がリラックスする頃に上手く話しかけ、思いや要望を聞くよう努めている。入浴を嫌がる人には無理強ひせず、人や日時を替えている。重度の人は隣接の小規模多機能の機械浴を利用している。季節のゆず湯や入浴剤も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間のメリハリに留意した上で個々の生活リズム、習慣、希望に応じた対応をすると共にゆったり休息出来るよう室温・照明灯に環境設備にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情表は常に最新の物をファイリングした上でスタッフ間の申し送りや記録を徹底し服薬内容を把握出来る状態にしている、セッティング時や与薬時は必ずダブルチェックを実施し声だし、本人確認・日時確認・嚙下確認を行い誤嚥防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを配慮し負担のかからない範囲で家事や趣味、レクリエーションを取り入れその人らしい暮らしとなるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩に出掛け、日曜日には生駒山近辺までよくドライブに出かけます。季節行事も取り入れ家族や地域組合員の協力のもと支援を行っている	天気の良い日は、近くの三箇第1・第2公園に散歩に出かけている。車椅子の人でもできるだけ玄関前や中庭に出て、外気に触れ日光を浴びて五感を刺激しながら生駒の山並みを見て、季節を感じるように支援している。家族やボランティアの協力を得て車での遠出も行っているが、全般的に外出が少なくなっている。	バイタルや排泄チェック表に散歩・外出の欄を設け、個々の希望と心身の状態を考慮した外出計画を立て、家族やボランティアの協力を得ながら、意識的に外出を増やす工夫を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族様よりお預かりしているお金で買い物や支払いを行っている。少額のお金を持っておられる方は各自で管理して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話にてご家族様とお話いただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ちテレビやソファ一本などを置き季節に応じた手作り展示品も掲示しており、くつろげる空間を工夫している	共用空間は何れも広く明るく清掃が行き届き清潔感があり、居心地良く過ごせる空間となっている。リビングにはテーブル・ソファがゆったりと配置され、オープンキッチンからは、利用者同士や職員と楽しく語らったり、レクリエーションを行っている様子を見守れる。壁には利用者手作りの大型刺繍や職員と合作の雛飾り・節分・梅と小鳥・タケノコなどの季節の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にて隣席の方と楽しそうに雑談する光景もよく見られ、また好きな時に自室に戻って休まれたり居心地の良い生活空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自身の好きな人形や置物、使い慣れた家具、入口には個々の表札を使用し居心地よく過ごして頂けるようにしている	居室には、洗面台・エアコン・防災カーテンが備え付けてある。利用者は使い慣れたベッド・テーブル・椅子・タンス・テレビ・縫いぐるみ・人形・家族の写真などを持ち込み、今までと変わらない落ち着いた穏やかな暮らしができるように工夫を凝らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が生活しやすいように、廊下には手すりを設置し、段差のないバリアフリー状態で設計している		